

- ・被験者には必ず緊急連絡用ボタン（図6）を渡し、左右いずれかの手に軽く持ってもらう。
- ・渡した際、実際にボタン部分を握りこんでブザーが鳴ることを確認してもらう。
- ・体調不良その他の異常発生時にはブザーを3回以上鳴らすように教示する（鳴らされたら撮像停止）。



図6. 緊急連絡用ボタン

- ・反応ボタンパッド（図7）を使用する場合、緊急連絡ボタンとともに被験者に渡す。
- ・養生テープが貼ってあるほうが右手用
- ・両方のパッドを使用する場合は、緊急連絡用ボタンを実験中に落として所在不明になること等のないよう持ち方を指示する。（パッドと手のひらの間に緊急ボタンのコードを通しておくなど）
- ・デフォルトのキー入力対応は以下の通り
右手用（青1 黄2 緑3 赤4）
左手用（青6 黄7 緑8 赤9）



図7. 反応ボタンパッド（認知課題遂行用）